

けんこう静岡

第127号

平成28年
(2016年)
10月1日(土)

季刊 1部50円 年200円
(送料税込)

発行所
公益財団法人 静岡県予防医学協会

http://www.shsa.net/

(静岡事務所)	〒421-1292	静岡市葵区建徳1-3-43	(054) 278-7716
(藤枝健診センター)	〒426-0053	藤枝市善左衛門2-11-5	(054) 636-6461
(総合健診センター)	〒426-8638	藤枝市善左衛門2-19-8	(054) 636-6460
(東部事務所)	〒410-0011	沼津市岡宮1210-1	(055) 921-1934
(西部検査所)	〒435-0006	浜松市東区下石田951	(053) 422-7800
発行責任者	石黒 満	印刷	池田屋印刷株式会社



高齢化社会に向けた「地域医療構想」の取組と健康づくり

静岡県東部保健所長

雑賀 俊夫

はじめに

全国的に、高齢化が進んでおり、その状況は、駿東田方圏域でも同様で、医療や介護の需要はますます増えていきます。このため、静岡県では、県民が安心して医療や保健サービスが受けられるよう、地域医療構想や地域包括ケアシステムの構築に向けた取り組みを始めました。

また、高齢になっても元気であることが必要であり、そのための生活習慣病対策は重要です。静岡県分析では東部地域は、生活習慣病が多い傾向であることがわかっており、健康課題解決に向けて生活習慣病対策を重点的に、市町や医師会等の御協力により取り組んでいます。

「地域医療構想とは」

県民がいつでも、どこでも、安心して必要な保健サービスが受けられる医療体制の整備を目指します。

静岡県は人口減少と高齢化が進んでいます。駿東田方圏域については、2015年には人口は約66万人余り、高齢化率は28%でした。国立社会保障・人口問題研究所の推計によれば、2015年から2025年にかけて約3万8千人が減少し、高齢化率については、2025年には33%になると推測されています。人口が減少することにより、生産年齢人口が減少し、高齢者が増加することで、医療や介護の需要が増えていきます。

このため、限りある医療資源を有効活用すること。利用者の視点にたって切れ目のない医療や介護の提供体制を構築すること。急性期の医療から在宅医療・介護までの一連のサービスを地域において切れ目なく総合的に確保していくこと。これらのために、「効率的で質の高い医療提供体制」と「地域包括ケアシステム」の構築が必要になります。

地域医療構想は、医療機能ごとに20年の医療需要と病床の必要量を推計するものです。医療機関の自主的な取組を促すこと、関係者間の協議・調整により必要量の確保を図ります。

医療提供体制の確保に当たっては、高度急性期は、救命救急病棟やICU等で実施するような重症者に対する診療密度が特に高い医療で、構想区域を超えた広域で対応し、急性期、回復期、慢性期機能は構想区域内で確保を図るという考え方がなります。



地域医療構想実現に向けては、病床の機能分化・連携の推進を図っていくことが重要となります。

また、今まで、医療の必要度が低い患者さんが社会的入院をしていたという現状がありましたが、今後は、このような方は在宅や特別養護老人ホームなどに移っていただくようになります。このため、地域ぐるみでそうした方を支えていくことが必要となります。

東部地域は生活習慣病が多い地域！

重症化予防・減塩・野菜摂取の増加で健康寿命を伸ばしましょう。

静岡県の健康寿命は全国の中でもトップクラスであり、メタボリックシンドロームは特定健診の結果で見ると、平成22年度から平成25年度までの4年間連続全国で最も少ない県となっています。しかし、一方では静岡県の死因別死亡数においては、脳血管疾患死亡数が全国平均より1割多い結果となっています。また、特定健診の結果から静岡県内を西部・中部・東部・賀茂地域の4つの地域別に比較すると、それぞれの地域で健康課題に特徴があります。

東部地域では、メタボをはじめとして高血圧有病者や糖尿病有病者、脂質異常有病者、肥満者、習慣的喫煙者が県平均より多く、県全体から見ると東部地域が生活習慣病に関する健康課題が多い地域となっています。

【東部地域の取り組み】

東部健康福祉センターでは、これらの健康課題の改善のために、①「重症化予防対策」②「望ましい生活習慣の推進」③「健診（検診）の受診促進」④「たばこ対策（受動喫煙対策）」を重点的に取り組んでいます。

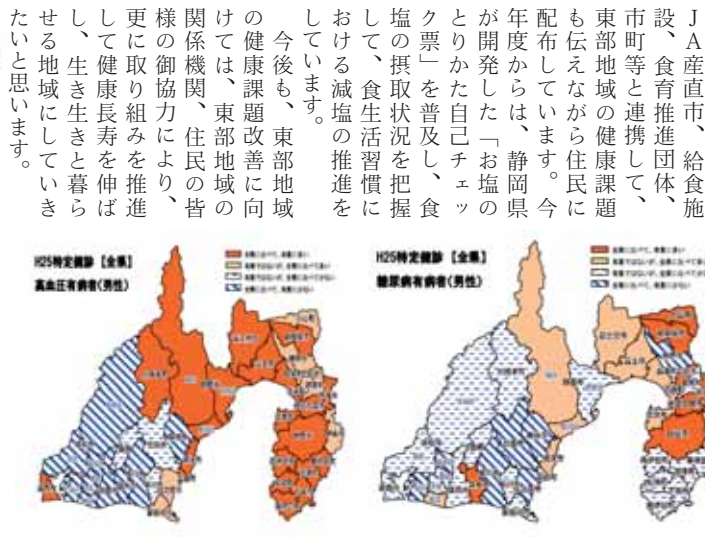
△重症化予防対策△

「重症化予防対策」では、昨年度から伊豆市をモデル地区として田方医師会の御協力により実施し、今年度は三島市をモデル地区として三島市医師会の御協力をより取り組んでいます。特に、人工透析予備群を減らすことを目標にしており、伊豆市では平成26年度の特定健診結果で要医療と判定された方で未受診の方55人にに対し、翌年の27年度に家庭訪問による受診勧奨を重点的に介入し、45人（82%）を受診に結びました。今年度は、三島市をモデル地区として、前年度特定健診の結果、尿たんぱく2+以上やGFR*50未満等要医療と判定されたが未受診の方124人を重点的に家庭訪問等で受診に繋げていきます。また、腎臓内科専門医とかかりつけ医、行政等との連携を強化するため連絡調整会議や指導者研修会を実施しています。

関係機関の役割分担を明確にし、連絡票を作成することにより、健診後にタイムリーに受診に繋ぐことができ、地域全体で重症化予防に取り組む体制に取り組んでいます。

△高血圧対策は生活習慣の改善・減塩・野菜摂取の増加△

東部地域に多い「高血圧対策」としては、働き盛り世代の「減塩」や「野菜摂取量の増加」を目指しています。平成24年度から毎年「地産地消の野菜レシピ集」を作成し、献立毎に栄養成分表示をはじめ食塩相当量や野菜量を掲載し、スパーマーケット、JA産直市、給食施設、食育推進団体、市町等と連携して、東部地域の健康課題も伝えながら住民に配布しています。今年度からは、静岡県が開発した「お塩のとりかた自己チェック票」を普及し、食塩の摂取状況を把握して、食生活習慣における減塩の推進をしています。



「インフルエンザの予防について」

保健所の業務の中では、感染症対策事業も大きな事業のひとつです。これから寒くなってくると、インフルエンザが発生してきますので、その予防についてお話をさせていただきます。

インフルエンザは、突然の高熱、頭痛、関節痛など全身症状が強く現れます。感染した人の咳やくしゃみ、つばなど飛沫とともに放出されたウイルスが、健康な人ののどなどに付着し吸い込まれて感染をします。感染した人が咳やくしゃみを手でおさえ、ウイルスがついた手でドアノブや電車の手すり等をさわったり、さらに健康な人がそのドアノブや手すりを触ったことによっても感染をします。

インフルエンザの予防には：

流行前の予防接種を受けること、外出後の手洗い、適度な湿度の保持、十分な休養とバランスのとれた栄養摂取、インフルエンザが流行している時期には人混みや繁華街への外出を控えるなど、予防策を講じてインフルエンザにかからないようにしましょう。

*GFR：推算糸球体濾過量。どれくらい腎臓に老廃物を尿へ排泄する能力があるかを示す値で、90以上が正常、50は中等度の腎機能低下を現す。



年一回は健康チェックを！

健康はあなたの財産です
すこやかな明日のために

人間ドック 脳ドック

総合健診センター

ヘルスポート

〒426-8638 藤枝市善左衛門2-19-8

TEL 054-636-6460

FAX 054-636-6465

0120-39-6460

「けんこう静岡」は、当協会ホームページから見るができます。

http://www.shsa.net/ または「静岡県予防医学協会」で検索してください。